

研究・調査報告書

報告書番号	担当
105	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
<p>The combined influence of leisure-time physical activity and weekly alcohol intake on fatal ischaemic heart disease and all-cause mortality. 致死的な虚血心疾患と総死亡率に関する余暇身体活動と週毎のアルコール摂取の組合せによる影響</p>	
執筆者	
Pedersen JO, Heitmann BL, Schnohr P, Gronbok M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur Heart J. 29(2): 204-212 (2008)	
キーワード	
アルコール、飲酒、身体活動、虚血心疾患、総死亡率、生存分析	
要 旨	
<p>目的： 致死的な虚血心疾患 (IHD) の危険性と総死亡率に関する余暇身体活動と週毎のアルコール摂取の組合せの影響について前向き継続的調査で検討した。</p> <p>方法と結果： 20 歳以上の IHD の既往症のない 11,914 人のデンマーク人での前向きコホート研究。約 20 年間の追跡調査の間、1,242 人が致死的な IHD を発症し、総死亡者数は 5,901 人であった。余暇身体活動は (i) 殆ど何もしないか週に 2 時間以下の活動 (読書、映画鑑賞など) [非身体活動]、(ii) 週に 2-4 時間の活動 (軽い散歩、サイクリング、軽い庭仕事、軽い運動など)、(iii) 4 時間以上の軽い活動あるいは活発な 2-4 時間の活動 (早歩き散歩、活発なサイクリング、重労働を伴う庭仕事、疲労を伴う運動など)、(iv) 活発な 4 時間以上の活動 (負荷の多い運動、対戦競技形式のスポーツなど) の 4 レベルに分類し、聞き取り調査で評価した。男性と女性の両方で、身体活動をしている被験者の致死 IHD と総死亡率の危険率は身体活動を行っていない被験者より低かった。さらに、週毎のアルコール摂取は致死 IHD と逆相関し、総死亡率とは U-型の相関が認められた。同じ身体活動レベル内での比較では、非飲酒被験者での致死 IHD 危険率が最も高く、一方、総死亡率の危険率では非飲酒被験者と多量飲酒被験者の両方が最も高かった。同じ週毎アルコール摂取レベルでは、身体活動の無い被験者で致死 IHD および総死亡率での危険率が最も高かった。このように、致死 IHD と総死亡率の危険率は適度な飲酒をして身体活動をしている被験者で低値であった。</p> <p>結論： 身体活動を行っていない非飲酒者は致死 IHD や総死亡率の危険性が高い。一方、余暇身体活動と中等度週毎アルコール摂取の組合せは致死 IHD や総死亡率の危険性を下げる上で重要である。</p>	